

# 宮城県商地工区 中小企業景況調査報告書

2025年7月～9月期

## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 1. 県下産業全体の景況              | 2  |
| (1) 主要景況項目のあらまし           | 2  |
| (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし | 3  |
| (3) 今後の見通しについて            | 4  |
| 2. 県下産業別の景況               | 5  |
| (1) 製造業の動向                | 5  |
| (2) 建設業の動向                | 8  |
| (3) 小売業の動向                | 11 |
| (4) サービス業の動向              | 14 |

2025年12月

宮城県商工会連合会



# 中小企業景況調査報告書

2025年7月～9月

## [調査要領]

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区  
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、大崎商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 150企業

### 2. 調査対象期間

2025年7月～9月期を対象として、調査時点は2025年9月1日とした。

### 3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

| 業 種   | 企 業 数 |
|-------|-------|
| 製 造 業 | 30    |
| 建 設 業 | 25    |
| 小 売 業 | 42    |
| サービス業 | 53    |
| 合 計   | 150   |

### 5. そ の 他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

# 1. 県下産業全体の景況

## (1) 主要景況項目のあらまし

### ① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2025年7月～9月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期と比べ△34.7（前期△30.4）で△4.3ポイントの悪化となった。産業別では、製造業が△36.6（前期△16.7）で△19.9ポイントの悪化、建設業は△36.0（前期△34.8）で△1.2ポイントの悪化、小売業は△52.4（前期△59.5）で7.1ポイントの改善、サービス業では△18.9（前期△13.2）と△5.7ポイントの悪化となった。

来期見通しでは、製造業、小売業、サービス業で改善する一方、建設業では悪化する見通しとなっている。

表-1 業況D I の状況と来期見通し（前年同期比・D I）

| 業種    | 前期     | 今期     | 来期見通し  |
|-------|--------|--------|--------|
| 全産業   | △ 30.4 | △ 34.7 | △ 31.8 |
| 製造業   | △ 16.7 | △ 36.6 | △ 33.4 |
| 建設業   | △ 34.8 | △ 36.0 | △ 40.0 |
| 小売業   | △ 59.5 | △ 52.4 | △ 43.9 |
| サービス業 | △ 13.2 | △ 18.9 | △ 17.3 |

### ② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業は16.7%で前期比7.0ポイント増加、建設業が8.0%で前期比△0.7ポイントの減少、小売業で7.1%で前期比△7.2ポイントの減少、サービス業では11.3%でも前期比△3.8ポイントの減少となった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて製造業、サービス業で減少する一方、建設業、小売業で増加する見通しとなっている。

表-2 設備投資の状況と来期計画（企業割合・%）

| 業種    | 前期   | 今期   | 来期計画 |
|-------|------|------|------|
| 製造業   | 9.7  | 16.7 | 10.0 |
| 建設業   | 8.7  | 8.0  | 12.0 |
| 小売業   | 14.3 | 7.1  | 11.9 |
| サービス業 | 15.1 | 11.3 | 7.5  |

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

2025年9月調査の日銀短観で、中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2025年6月調査）と比較し、「製造業が横ばいでプラス1、非製造業では1ポイント低下しプラス14と小幅悪化の見込み。堅調なインバウンド需要やインフレ率の低下による家計の購買力改善が全体を押し上げるものの、最低賃金の引き上げなどに伴う人件費の増大が、中小の対面サービス業を中心に景況感を下押しする見込み」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では製造業、建設業、サービス業で悪化、小売業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、全業種で全国・東北以下であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

| 区分<br>業種 | 全 国    |        | 東 北    |        | 宮 城    |        |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|          | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    |
| 製 造 業    | △ 8.5  | △ 8.0  | △ 10.3 | △ 2.5  | △ 3.3  | △ 10.0 |
| 建 設 業    | △ 11.7 | △ 10.6 | △ 23.7 | △ 20.9 | △ 30.5 | △ 62.5 |
| 小 売 業    | △ 18.2 | △ 17.7 | △ 35.5 | △ 24.3 | △ 40.5 | △ 28.6 |
| サービス業    | △ 3.2  | △ 0.9  | △ 12.3 | △ 8.0  | △ 7.5  | △ 9.4  |

### ② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較で製造業、建設業で悪化、小売業、サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較でも、全業種で全国・東北以下であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

| 区分<br>業種 | 全 国    |        | 東 北    |        | 宮 城    |        |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|          | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    | 前 期    | 今 期    |
| 製 造 業    | △ 22.9 | △ 21.9 | △ 23.4 | △ 20.7 | △ 26.6 | △ 27.6 |
| 建 設 業    | △ 20.3 | △ 21.6 | △ 36.4 | △ 26.1 | △ 39.2 | △ 40.0 |
| 小 売 業    | △ 32.1 | △ 29.1 | △ 48.0 | △ 37.8 | △ 61.0 | △ 50.0 |
| サービス業    | △ 21.9 | △ 20.8 | △ 32.5 | △ 27.3 | △ 35.9 | △ 28.3 |

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2025年10月～12月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が3.3ポイント、建設業で30.5ポイント、サービス業で11.3ポイントの改善、小売業では△11.9ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較では、製造業、建設業で横ばい、小売業で9.5ポイントの改善、サービス業で△0.5ポイント悪化の見通しとなった。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で改善、宮城で横ばいの見通し。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で悪化、宮城で横ばいの見通し。小売業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通し。サービス業では売上が全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

| 区分<br>業種 | 全 国    |        | 宮 城    |        |
|----------|--------|--------|--------|--------|
|          | 今期状況   | 来期見通し  | 今期状況   | 来期見通し  |
| 製造業      | △ 8.0  | △ 8.7  | △ 10.0 | △ 6.7  |
| 建設業      | △ 10.6 | △ 13.3 | △ 62.5 | △ 32.0 |
| 小売業      | △ 17.7 | △ 19.5 | △ 28.6 | △ 40.5 |
| サービス業    | △ 0.9  | △ 3.0  | △ 9.4  | 1.9    |

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

| 区分<br>業種 | 全 国    |        | 宮 城    |        |
|----------|--------|--------|--------|--------|
|          | 今期状況   | 来期見通し  | 今期状況   | 来期見通し  |
| 製造業      | △ 21.9 | △ 19.0 | △ 27.6 | △ 27.6 |
| 建設業      | △ 21.6 | △ 21.8 | △ 40.0 | △ 40.0 |
| 小売業      | △ 29.1 | △ 25.4 | △ 50.0 | △ 40.5 |
| サービス業    | △ 20.8 | △ 18.1 | △ 28.3 | △ 28.8 |

## 2. 県下産業別の景況

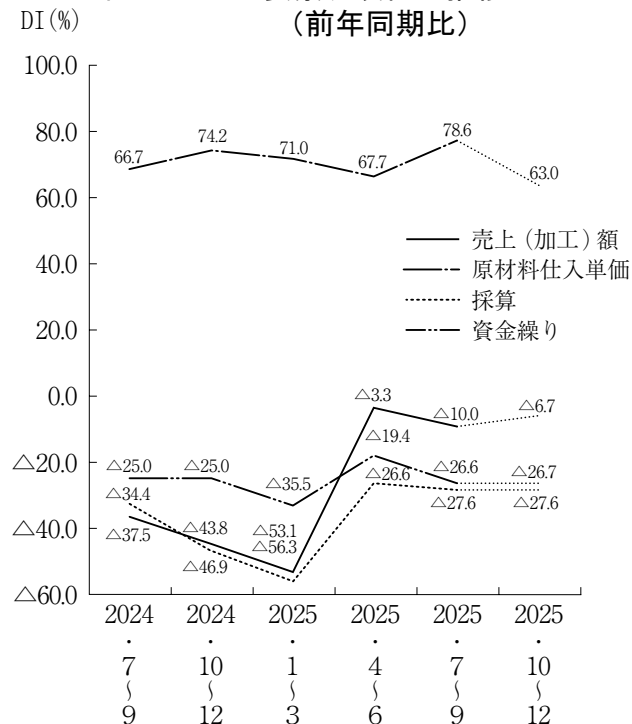
### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△10.0（前期△3.3）となり前期比△6.7ポイント悪化、採算D Iでは今期△27.6（前期△26.6）で△1.0ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△26.6（前期△19.4）で△7.2ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期 78.6（前期 67.7）と 10.9ポイントの増加となった。

図 1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



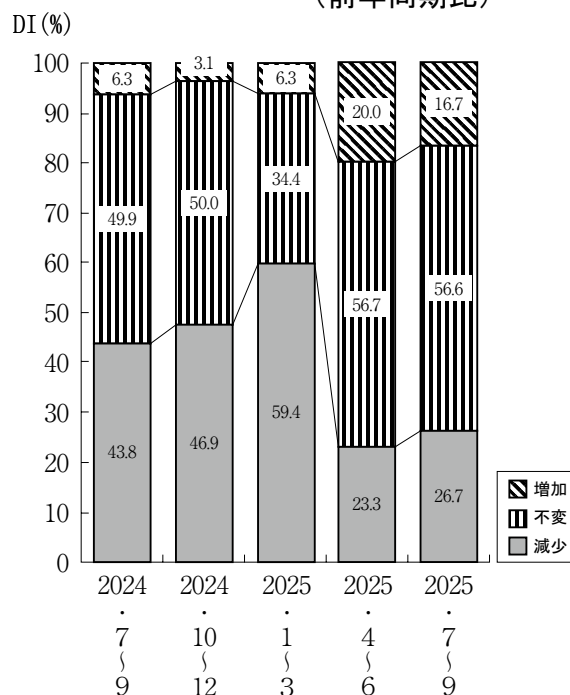
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の16.7%（前期20.0%）で△3.3ポイントの減少、「減少」と回答した企業は26.7%（前期23.3%）で3.4ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額D Iは△10.0（前期△3.3）となり、前期比△6.7ポイントの悪化となった。

図 1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)

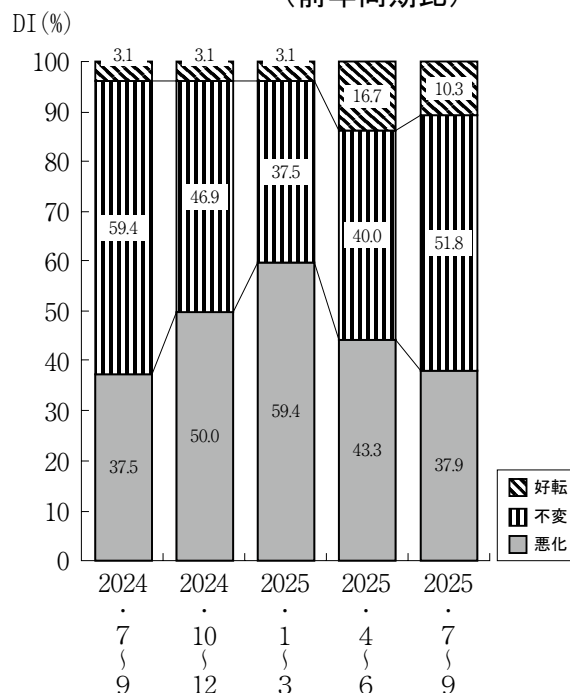


(b) 採算

「好転」と回答した企業は全体の10.3%（前期16.7%）で△6.4ポイント減少、「悪化」と回答した企業は37.9%（前期43.3%）で△5.4ポイント減少した。

その結果、採算DIは△27.6（前期△26.6）で△1.0ポイントの悪化となった。

図1-3 採算の状況  
(前年同期比)



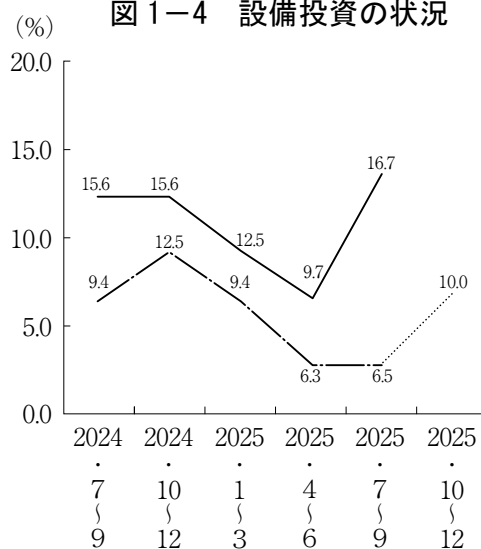
(c) 設備投資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の16.7%（前期9.7%）で前期と比べ7.0ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の10.0%で、その設備内容は、土地、生産設備、付帯設備、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況



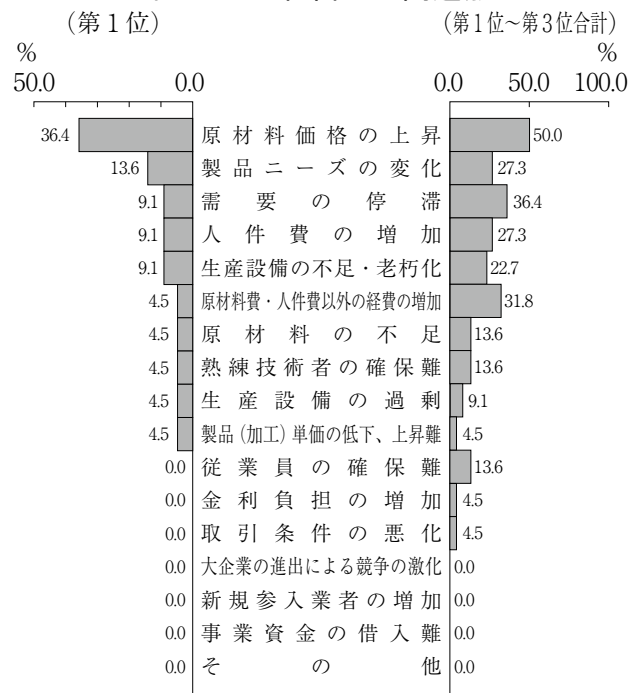


**(d) 経営上の問題点**

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で36.4%、次いで「製品ニーズの変化」が13.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が50.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が36.4%、「原材料費・人件費以外の経費」が31.8%、「製品ニーズの変化」「人件費の増加」が同率27.3%、「生産設備の不足・老朽化」が22.7%、「原材料の不足」「熟練技術者の確保難」「従業員の確保難」が同率13.6%、「生産設備の過剰」が9.1%で続いた。

**図1-5 経営上の問題点**



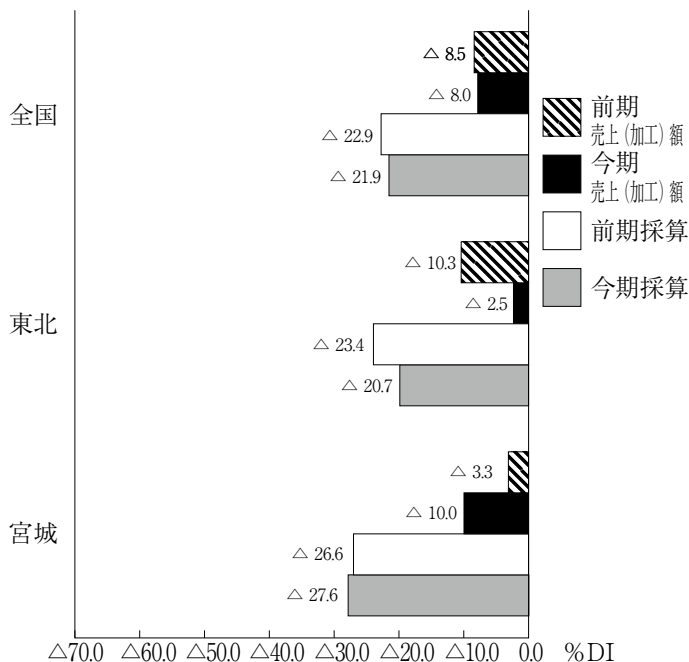
**③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較**

今期と前期との比較で、売上(加工)額DIは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算DIでも全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

本県回答事業者からは、「業界そのものが縮小傾向にある」(印刷業)、「金属材料の価格が高騰により、代替品需要が増えている」(歯科技工)、「猛暑の影響が客足、売上に反映した」(食料品製造業)、「人件費上昇に伴い費用対効果が合わなくなったため外国人を雇用した」(水産製品製造業)、「社会保険等給付など、賃上効果が少ない」(昼製造業)などのコメントが寄せられた。

**図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)**



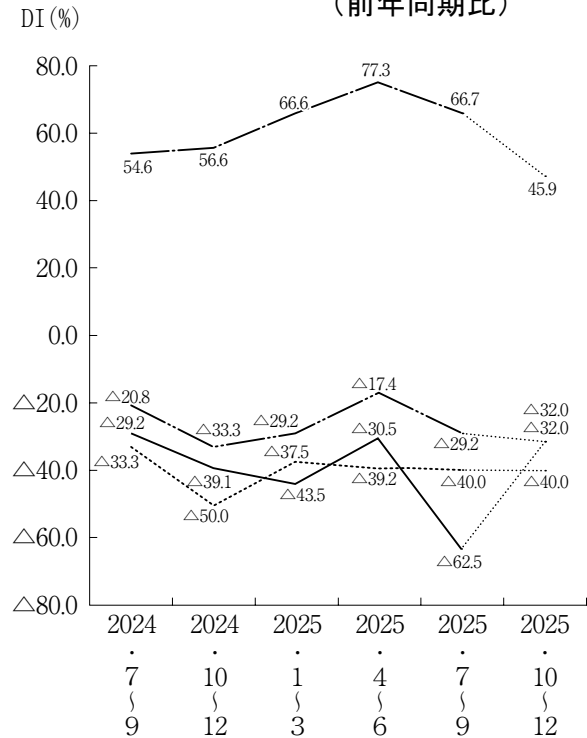
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△62.5（前期△30.5）となり前期比△32.0ポイント悪化、採算D Iでは今期△40.0（前期△39.2）で△0.8ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△29.2（前期△17.4）で△11.8ポイントの悪化となった。

材料仕入単価D Iは今期 66.7（前期 77.3）と△10.6ポイントの減少となった。

図 2-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



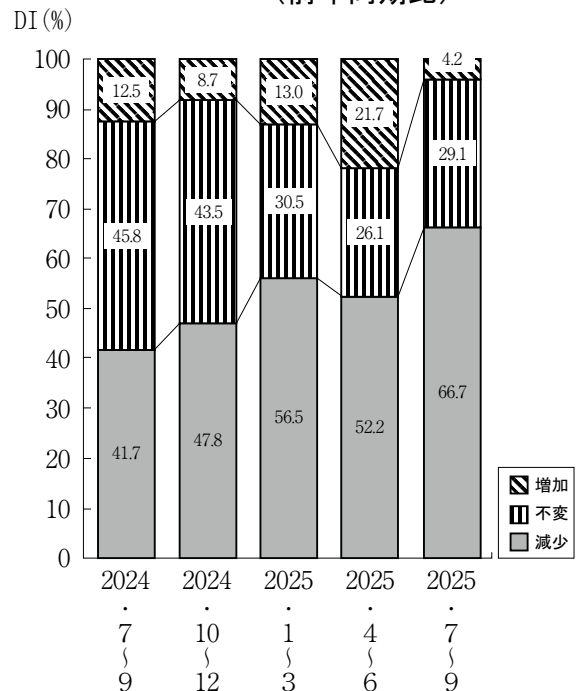
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 4.2%（前期 21.7%）で△17.5ポイント減少、「減少」と回答した企業は 66.7%（前期 52.2%）で 14.5ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△62.5（前期△30.5）となり、前期比△32.0ポイントの悪化となった。

図 2-2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

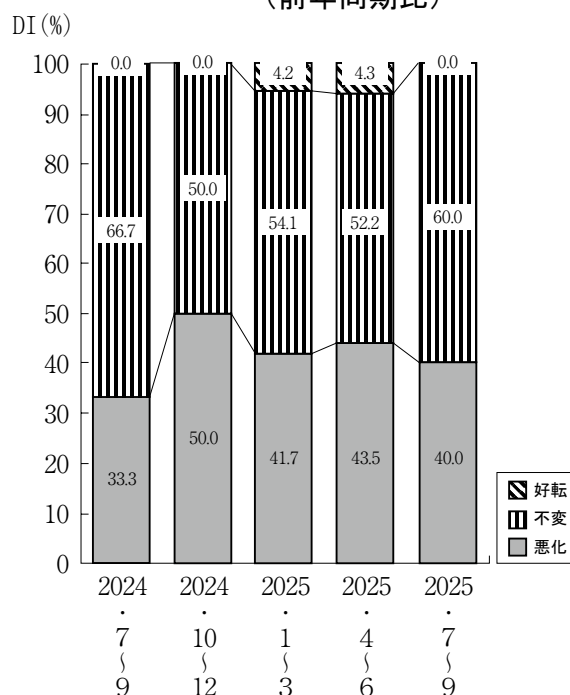


### (b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 4.3%) で△4.3 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 40.0% (前期 43.5%) で△3.5 ポイント減少した。

その結果、採算DIは△40.0 (前期△39.2) となり△0.8 ポイントの悪化となった。

図 2-3 採算の状況  
(前年同期比)



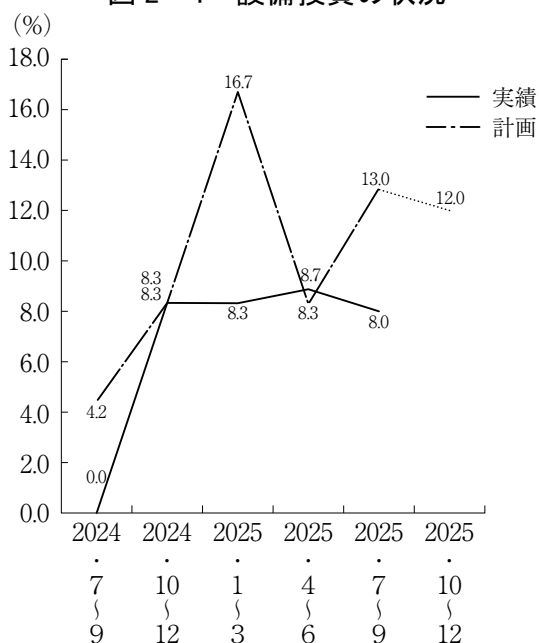
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 8.0% (前期 8.7%) で前期と比べ△0.7 ポイント減少した。

その設備内容は、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.0%で、その設備内容は、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 2-4 設備投資の状況



### (d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」「従業員の確保難」が同率25.0%、次いで「官公需要の停滞」が15.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」「民間需要の停滞」が同率45.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「従業員の確保難」が40.0%、

「材料費・人件費以外の経費の増加」が30.0%、「官公需要の停滞」「人件費の増加」「下請単価の上昇」が同率25.0%、「請負単価の低下、上昇難」「熟練技術者の確保難」が同率15.0%、「新規参入業者の増加」「材料の入手難」が同率10.0%で続いた。

### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D Iは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算D Iでは東北で改善、全国、宮城で悪化となった。

本県回答事業所からは、「受注については、前期より改善したように感じるが、物価高による影響で動きが不安定な面もある」（内装仕上工事）、「民間需要が停滞している」（塗装工事業）、「大型案件の引き合い、受注が減少傾向にあり、来期見通しは厳しいのではないかと判断している」（電気工事業）、などのコメントが寄せられた。

図2-5 経営上の問題点

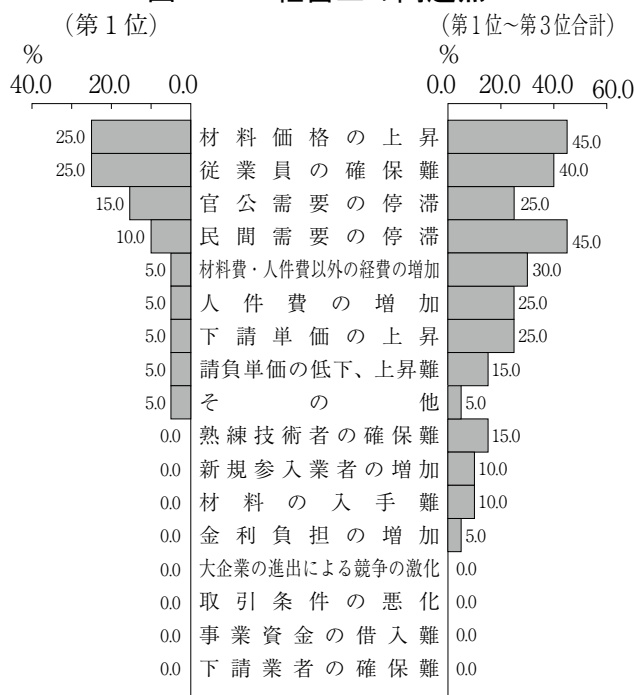
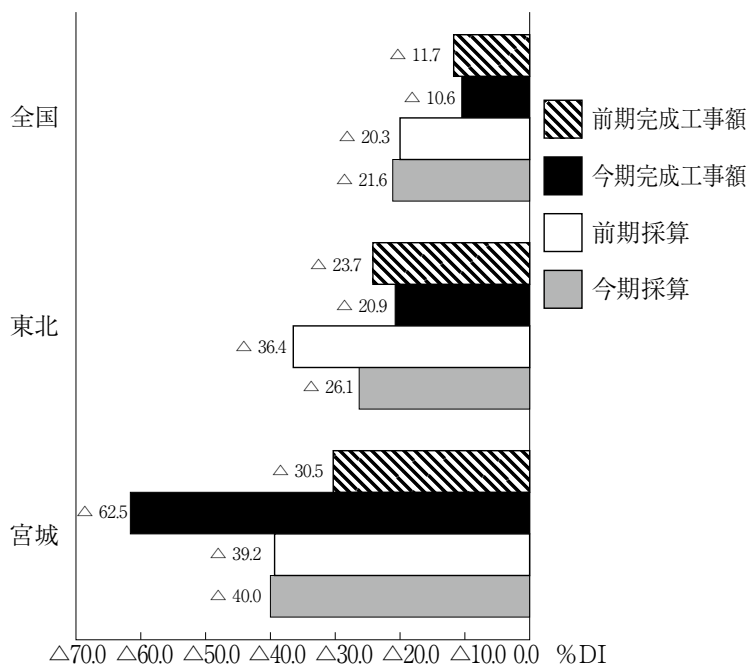


図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



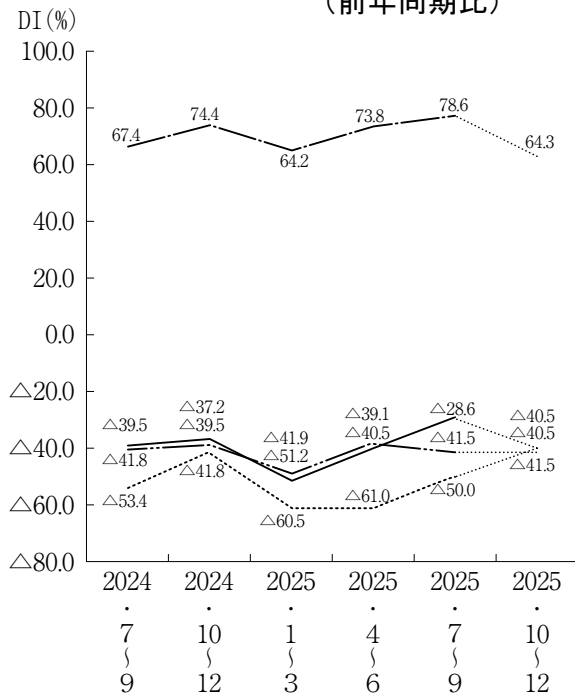
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは今期△28.6(前期△40.5)となり前期比11.9ポイント改善、採算DIでは今期△50.0(前期△61.0)で11.0ポイント改善、資金繰りDIでは今期△41.5(前期△39.1)で△2.4ポイント悪化した。

商品仕入単価DIは今期78.6(前期73.8)で4.8ポイントの増加となった。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



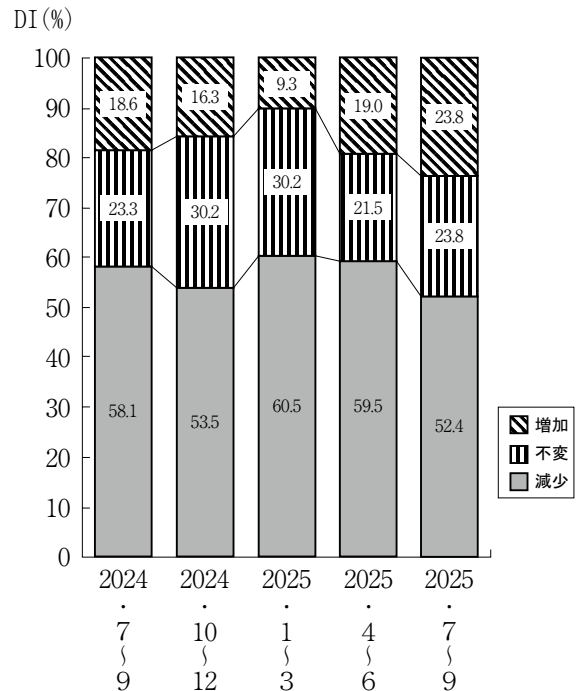
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の23.8%(前期19.0%)で4.8ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の52.4%(前期59.5%)で△7.1ポイント減少した。

その結果、売上額DIは今期△28.6(前期△40.5)と前期より11.9ポイントの改善となった。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

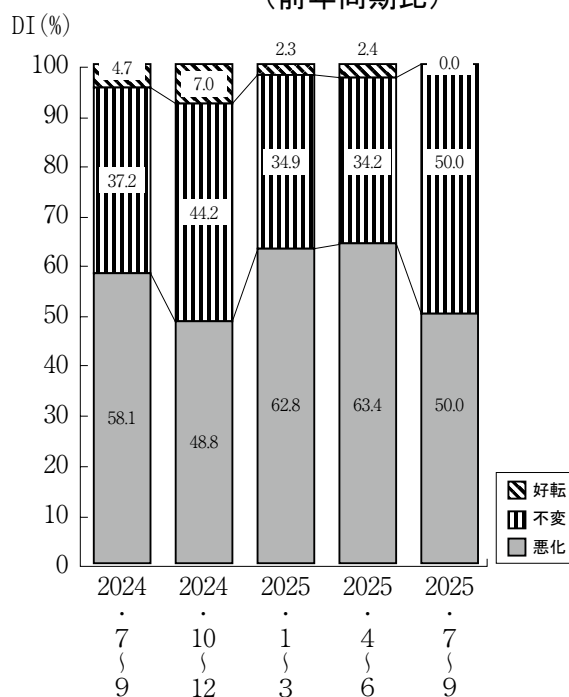


### (b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期2.4%）で△2.4ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の50.0%（前期63.4%）で△13.4ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△50.0（前期△61.0）となり11.0ポイントの改善となった。

図3-3 採算の状況  
(前年同期比)



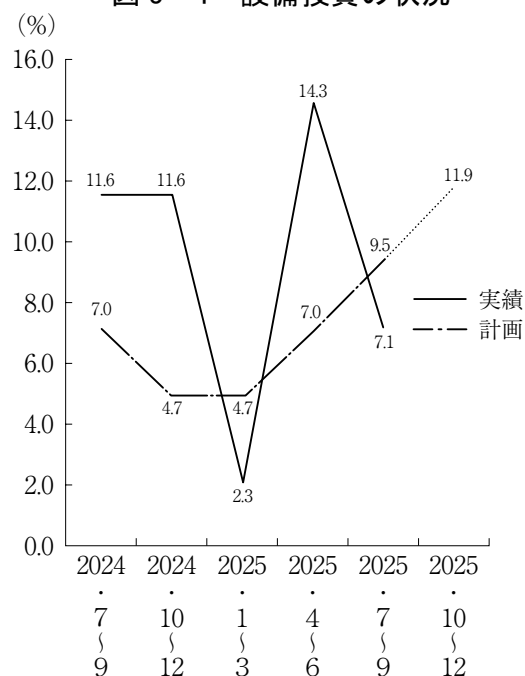
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の7.1%（前期14.3%）で前期と比べ△7.2ポイント減少した。

その設備内容は、店舗、販売設備、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の11.9%で、その設備内容は、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

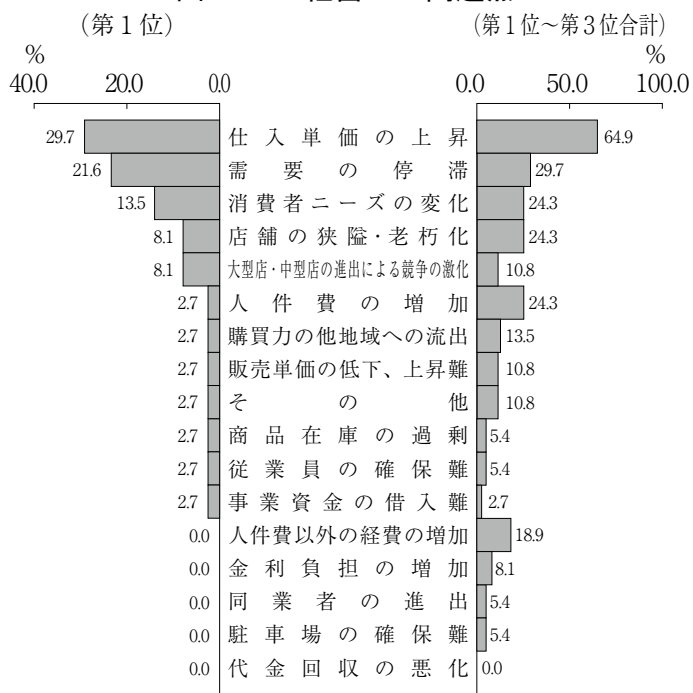


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「仕入単価の上昇」が29.7%、次いで「需要の停滞」が21.6%、「消費者ニーズの変化」が13.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が64.9%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が29.7%、「消費者ニーズの変化」「店舗の狭隘・老朽化」「人件費の増加」が同率24.3%、「人件費以外の経費の増加」が18.9%、「購買力の他地域への流出」が13.5%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」「販売単価の低下、上昇難」が同率10.8%、「金利負担の増加」が8.1%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



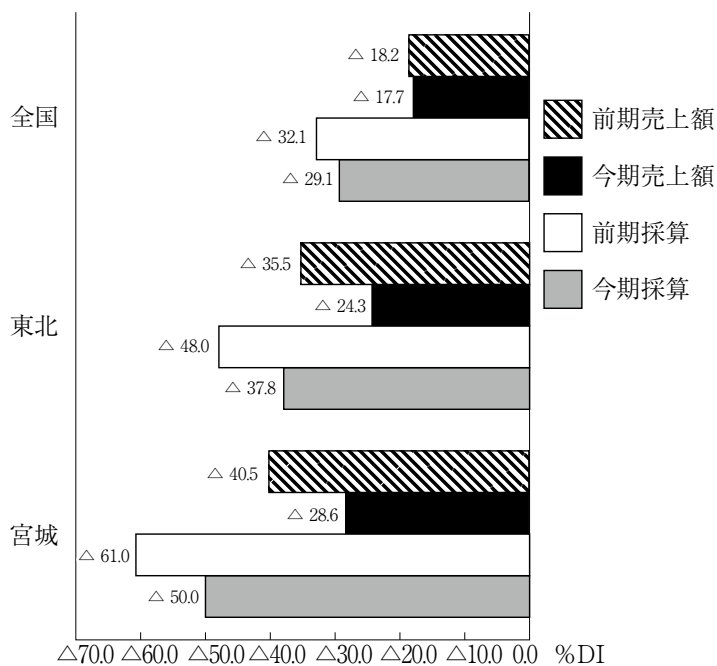
② 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上DIは全地域（全産業）で改善となった。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIでも全地域（全産業）で改善となった。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは、「気温が高すぎて客数、売上が伸び悩み」（菓子小売業）、仕入単価が上昇している」（写真・印章業）（酒小売業）、「粗利益率が低下している」（飲食店）、「人件費増で利益確保が困難」（各種商品小売業）、「天候の影響により商品入荷が不安定、売上確保に苦慮」（野菜・果実小売業）、などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



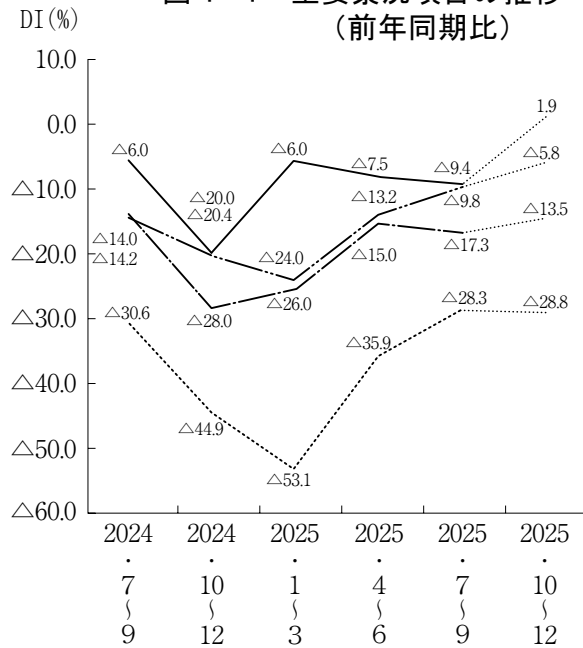
## (4) サービス業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△9.4（前期△7.5）となり前期比△1.9ポイント悪化、採算D Iは今期△28.3（前期△35.9）で7.6ポイント改善、資金繰りD Iでは、今期△9.8（前期△13.2）で3.4ポイント改善した。

利用客数D Iは、今期△17.3（前期△15.8）で△1.5ポイント悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



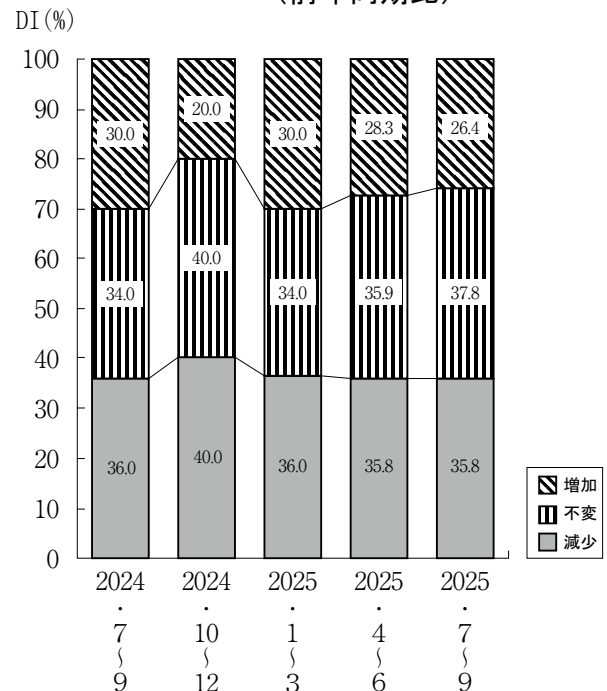
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の26.4%（前期28.3%）で前期より△1.9ポイント減少、「減少」の回答は今期35.8%（前期35.8%）で横ばい。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△9.4（前期△7.5）で、前期より△1.9ポイントの悪化となった。

図4-2 売上（収入）額の状況  
(前年同期比)



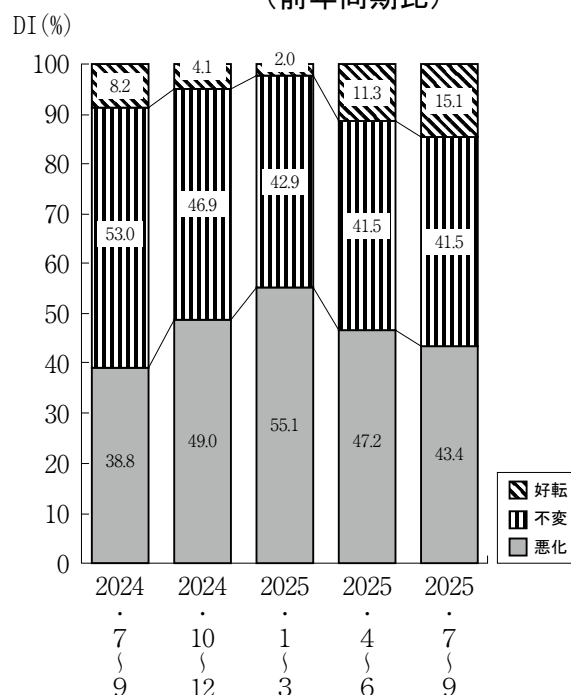


### (b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の15.1%（前期11.3%）で3.8ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期43.4%（前期47.2%）で△3.8ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△28.3（前期△35.9）で前期より7.6ポイントの改善となった。

図4-3 採算の状況  
(前年同期比)



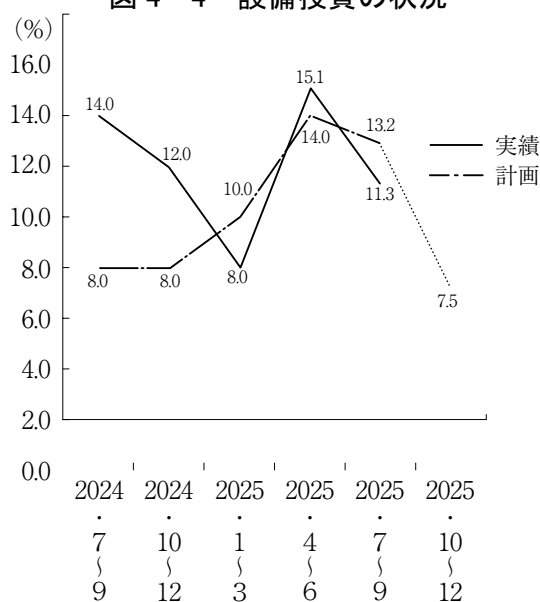
### (c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の11.3%（前期15.1%）で、前期と比べ△3.8ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の7.5%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

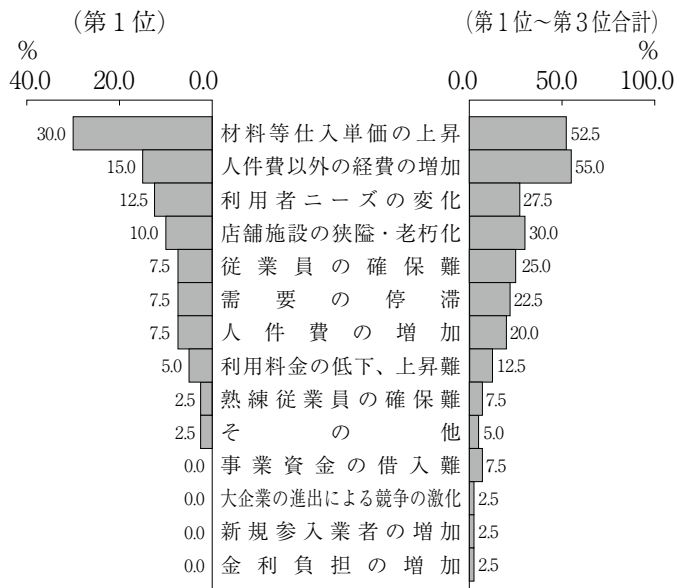


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が30.0%、次いで「人件費以外の経費の増加」が15.0%、「利用者ニーズの変化」が12.5%であった。

重要度第1位から第3位合計では「人件費以外の経費の増加」が55.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「材料等仕入単価の上昇」が52.5%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が30.0%、「利用者ニーズの変化」が27.5%、「従業員の確保難」が25.0%、「需要の停滞」が22.5%、「人件費の増加」が20.0%、「利用料金の低下、上昇難」が12.5%、「熟練従業員の確保難」が7.5%、「その他」が5.0%、「事業資金の借入難」が7.5%、「大企業の進出による競争の激化」が2.5%、「新規参入業者の増加」が2.5%、「金利負担の増加」が2.5%であった。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算DI比較では全地域（全産業）で改善。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは、「昨年よりも新規の客が増えた」（美容業）、「常連客をつかみ売上は確保している」（飲食サービス業）とする一方、「冷凍品の仕入価格が上がっている」（鮮魚小売業）、「物価高と人件費の上昇で利益が悪化している」（飲食サービス業）、「増加運転資金を抑えるため設備投資の優先順位を再考している」（宿泊業）、などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

